

Press Release

長崎県壱岐市の移住施策の目玉！市民が手がける移住交流拠点オープンに向けて 2/9（土）壱岐市と市民団体「たちまち」が連携協定を締結 -リビングラボによる生涯活躍のまち（CCRC）事業-

壱岐市生涯活躍のまち推進協議会（会長：白川博一市長）は、福岡などから移り住んだ人や壱岐に住まう市民が、生きがいを持ち、生涯を通じて健康で活躍できる『生涯活躍のまち（壱岐市版 CCRC）』を、リビングラボ（市民参加型の共創活動）の思想で推進しています。

このたび2月9日（土）に、生涯活躍のまちの一環として、壱岐市と市民団体「たちまち」は連携協定を締結します。市民団体「たちまち」は今春に移住交流施設のオープンを予定しており、本施設を拠点に、官民が連携して移住促進や空き家活用に取り組んでいく予定です。

同日、連携協定締結式および拠点施設の内覧会を開催いたしますので、取材につきましてご検討くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. たちまち拠点施設

芦辺浦地区内にある空き家（123㎡、木造2階建て）を、子どもを中心としたまちづくりに取り組む市民団体「たちまち」が主体となり、子どもやまちの人々と一緒にリノベーション（改修）。子どもや住民がふらっと立ち寄ることができる交流スペースと食堂を核とし、島外からの出張者や短期滞在者も集える場所とすることで、様々な人が混ざり合う場を目指す。また、移住相談窓口としても機能する予定。

- 施設概要：「CHIRITORI 自由食堂」（みなとやゲストハウス運営、3月3日オープン予定）、交流スペース（2月オープン予定）、移住相談窓口（今春オープン予定）
- 物件位置：長崎県壱岐市芦辺町芦辺浦62番地（別紙地図参照）
- 整備・運営主体：たちまち

2. 市民団体「たちまち」 -子どもたちの日常がつくる芦辺浦計画-

「芦辺浦を人と人の交差点にすること」をミッションに、子どもたちの居場所づくり、空き家・空き地調査、芦辺浦の情報発信を行う。芦辺浦で暮らし活動する3組の夫婦で始動。

- 「たちまち」とは、壱岐では「とりあえず」を指す言葉。
- メンバー：篠崎竜大・千恵美（LIGHTHOUSE設計株式会社、Small Studio）、大川漁志・香菜（みなとやゲストハウス）、平山健人・みずき（PIZZERIA Potto）
- ウェブサイト：<http://www.tachimachi.net/>



子どもたちの日常がつくる芦辺浦計画
たちまち

「たちまち」
広辞苑：非常に短い時間のうちに行われる様。すぐ。即刻。
壱岐：とりあえず。

- ・たちまち考えてみよう
- ・たちまち動いてみよう
- ・未来をたちまち信じてみよう



（写真左：第1回たちまちワークショップの記念撮影、右：整備イメージ）

3. リリースに関する問い合わせ先

壱岐市生涯活躍のまち推進協議会 事務局 福岡地域戦略推進協議会（Fukuoka D.C.）
担当：片田江 TEL:092-733-5682 Mail：info@fukuoka-dc.jpn.com

※当日取材の場合は、別紙にてお申し込みください。

(別紙1)「彦岐市生涯活躍のまち」の取組について

1. 生涯活躍のまち (CCRC) とは

地方創生の観点から、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくり (内閣府地方創生本部より)

2. 彦岐市生涯活躍のまち (彦岐市版 CCRC) とは

福岡等から移り住んだ人や彦岐に住まう市民が、生きがいを持ち、生涯を通じて健康で活躍できる“まちづくり”を目指すもので、人口減少が進む中、彦岐市ならではの健康でアクティブな暮らしを求めて、市外から本市に移り住み、地域の担い手・活力になる。ひいては、雇用の創出や地域の活性化を目指した取組み。
※彦岐市生涯活躍のまち基本指針 <https://www.city.iki.nagasaki.jp/kankou/teiju/4514.html>

3. 彦岐市生涯活躍のまち推進協議会

- 2017年9月設立
- 会長：白川博一 (彦岐市長)
- 幹事団体：彦岐医師会、彦岐市、彦岐市社会福祉協議会、彦岐市シルバー人材センター、彦岐みらい創りサイト、岩永学園、十八銀行、親和銀行、福岡地域戦略推進協議会
- ワーキンググループ：移住促進、居住環境整備、シニア活躍推進、オール彦岐推進 (ケア) の4つのグループを事業者・市民有志で組成
- 事務局：福岡地域戦略推進協議会 (産官学民の事業創出プラットフォーム。リビングラボを多く手がける。)

4. 彦岐市生涯活躍のまちの特徴

- **リビングラボによる自律的な地域経営の推進**：市民有志でワーキンググループを組成し、地域の課題やニーズにフレキシブルに対応しながら事業を具体化。
 - リビングラボ：2000年代から欧州、特に北欧にて発展した市民参加型の共創活動のこと。生活者 (課題の当事者) と、企業や自治体、大学・研究機関等の関係者が関わり合うことによって“共創”し、生活者が①サービスや製品を共創するパートナーとしての役割と、②サービスのモニターという2つの役割を果たすことによって、より満足度の高いサービスや製品を世に生み出していくことが期待できる。
 - 「たちまち」は、移住者の住まいやPR拠点となる空き家の整備を検討するグループのメンバーを中心に組成された。
- **福岡都市圏をターゲットに移住促進**：国境離島新法等の既存施策と連携して移住を推進
- **移住から人生の終わりまで包括的に推進**：移住、住まい、就労・活躍、健康増進、終活

<主な取り組み経緯>

2015年度	「市第二次総合計画」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にて CCRC を主要施策に掲げる
2016年度	産官学民による「彦岐市生涯活躍のまち基本指針・実施計画等策定委員会」を設置
2017年9月	市民ワークショップを経て、「彦岐市生涯活躍のまち基本指針・実施計画」を策定 彦岐 CCRC 形成を推進する「彦岐市生涯活躍のまち推進協議会」を設立
12月～	CCRC 推進に意欲のある市民・事業者等で、4つのワーキンググループを組成し、 リビングラボの手法で実施策のアイデア出し
2018年8月～	ワーキンググループで具体化した実施策の実行 ●彦岐への移住や島暮らしに関する情報発信を行う SNS を開設 ●短期の移住就労体験「恋する島インターン」を実施 (8月～12月) ●市内在住のシニアを対象とした就労実態・就労意向調査を実施
10月	●市内企業のシニア雇用を推進する「彦岐島のシニア人材の活用を考えるセミナー」を開催
10月～2月	●多職種で企画した「彦岐市エンディングファイル」を発行、終活セミナーを開催
11月、2月	●骨粗しょう症予防セミナーを開催予定
12月	●医療介護人材の求人に関する CM を公開
2019年2月	●移住交流拠点「たちまち」竣工、彦岐市とたちまちが連携協定を締結予定
2019年3月	●移住交流拠点「たちまち」に食堂がオープン予定
2019年春	●移住交流拠点「たちまち」に移住相談窓口を設置予定



（別紙2）芦辺浦地区における移住促進ならびに空き家の活用推進に関する連携協定について

吉崎市と芦辺浦地区任意団体「たちまち」は、吉崎市芦辺町芦辺浦地区を吉崎市への移住モデルエリアと位置づけ、官民が連携し、増加する空き家を活用することで、本地区への人の流れを促し、移住者や地域住民・子どもたちが交流を深めながら魅力的に暮らす「吉崎市生涯活躍のまち」の実現に寄与することを目的として、連携協定を締結します。

本協定に基づき、吉崎市とたちまちでは、吉崎市への効果的な移住促進に向けてパートナーシップを構築し、今後、たちまち拠点における移住相談窓口の設置や本地区の空き家活用等を検討していきます。

1. 協定内容

芦辺浦地区における移住促進ならびに空き家の活用推進に関する連携協定

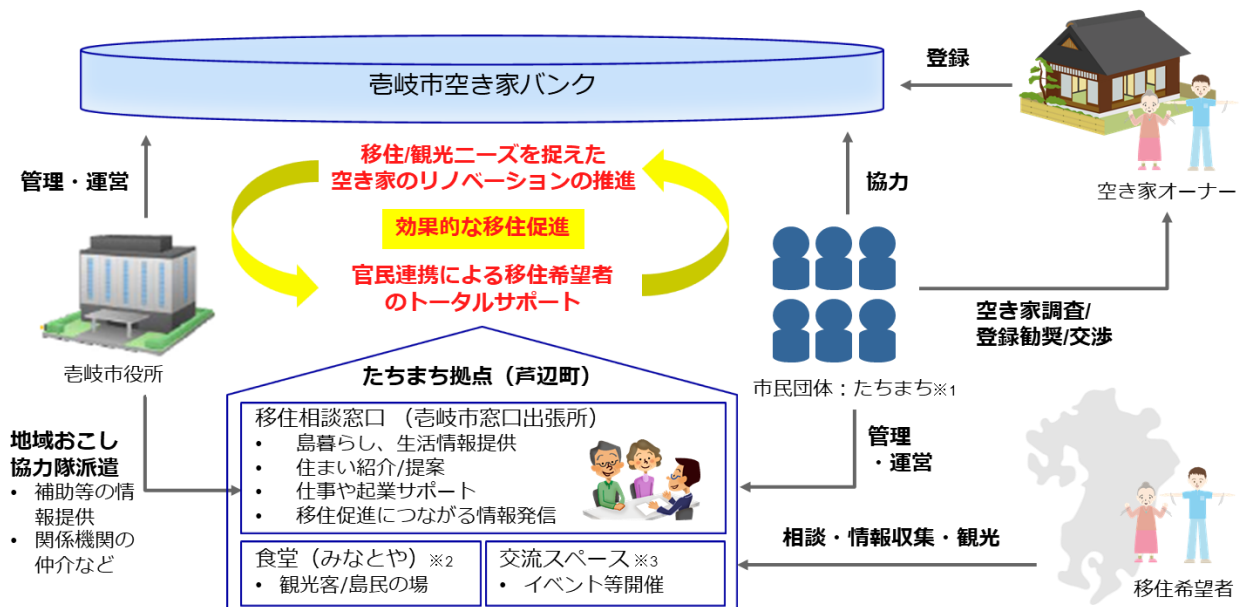
【連携・協力事項】

- (1)本地区で吉崎市への移住を希望する者（以下、移住希望者）や空き家の所有者の相談に対応する窓口の設置
- (2)吉崎市での移住・定住に関する情報発信
- (3)移住希望者が円滑に移住するために必要な支援
- (4)吉崎市が運営する空き家バンクの登録推進に関すること
- (5)本地区のまちづくりに関すること
- (6)その他、両者の連携による取組が必要と認められる事項

2. 期待される効果

- 「吉崎市（官）」と「たちまち（民）」が連携することで、行政の信頼性と公的支援、民間のノウハウと柔軟性を融合。双方が抱える課題を解決し、効果的な移住促進へとつなげる。
- 具体的には、空き家を改修した「たちまち拠点」に市の移住相談窓口の出張所を設置するとともに、空き家バンクの運営を協力して実施。これにより、移住希望者に対しニーズや地域事情に即したワンストップの相談対応・支援、空き家を活用した住まいの提案、空き家バンクの質的・量的拡充が可能となる。

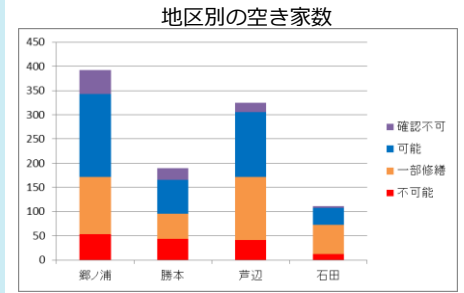
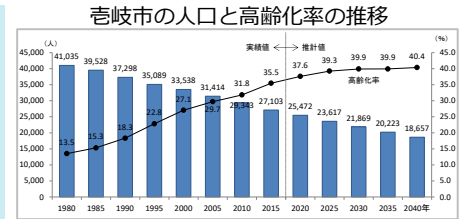
＜官民連携の目指す姿＞ ※記載内容はイメージです。今後の協議により変更になる可能性があります



※1 将来的には、他の民間団体も加わり、吉崎市全体の空き家調査体制への展開も想定
 ※2 国境離島新法雇用機会拡充事業採択 ※3 まちづくり市民事業採択

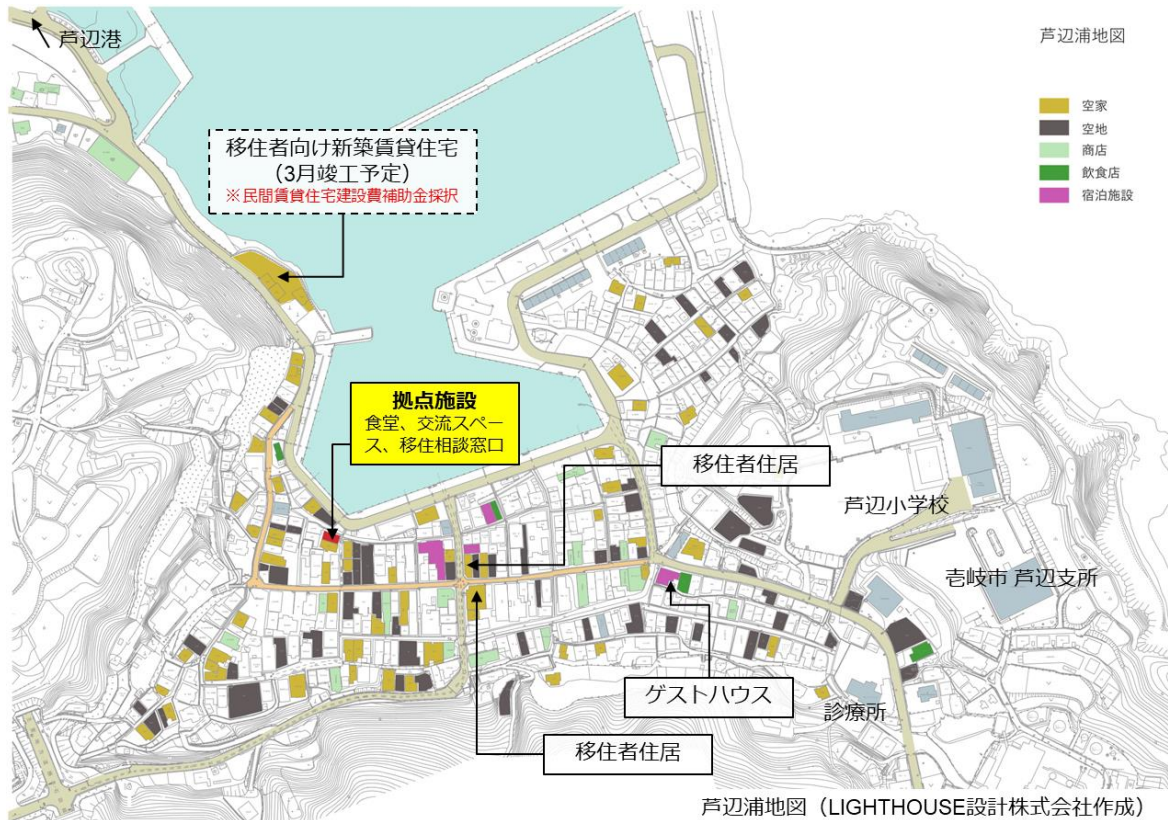
(参考) 壱岐市の概要

- 長崎県壱岐市は、福岡県福岡市から高速船で1時間という地理的優位性をもつことから、経済圏も福岡都市圏を中心とした北部九州地域に広がっている。離島でありながらも、福岡都市圏と一体となった暮らし方や働き方が可能であり、移住の訴求にあたって大きな強みとなっている。
- 人口：26,830人/芦辺町 7,200人（2018年11月末時点）
- 空き家：1,017件/芦辺町 325件 ※居住可能な空き家 411件/芦辺町 134件（2016年度調査）



(参考) 空き家活用や移住が進む「芦辺浦地区」= 移住モデルエリア

- 壱岐市の東部に位置する芦辺町芦辺浦地区は、壱岐～博多航路が就航する芦辺港に近く、古くから島の玄関口として重要な役割を果たしてきた。生活圏内にインフラや生活サービス施設が整備されており※、港やショッピングセンターにも近いため都会から移住しやすい環境が整っている。
- 近年では、空き家を改修したゲストハウス（みなとや）が観光客・移住者・地域住民のハブとなっている。芦辺町全体で、移住者の住居やゲストハウスなどへの空き家活用が進む。
- 今春には、壱岐市民間賃貸住宅建設費補助金に採択された、移住者向け賃貸住宅も竣工予定。



※徒歩圏内（半径1.5km）の施設：港、市役所（支所）、小学校、保育所、公民館、診療所、福祉施設、郵便局、銀行、ショッピングセンター、商店、飲食店、コンビニエンスストア、バス停、ガソリンスタンド、海水浴場

連携協定締結式・内覧会 取材申込書

(FAX 返信先 092-733-5680) 担当：片田江宛

●連携協定締結式

- (1)日 時 2019年2月9日(土)
締結式：11時00分～11時45分
内覧会：11時45分～
- (2)場 所 たちまち拠点施設(長崎県壱岐市芦辺町芦辺浦62番地)
- (3)内 容 協定の趣旨説明、協定書署名、署名者挨拶、写真撮影、質疑応答、内覧会
※同日、子どもを対象としたワークショップ(主催：たちまち)を開催予定
- (4)出席者：壱岐市長／壱岐市生涯活躍のまち推進協議会 会長 白川博一
たちまち 篠崎竜大・千恵美、大川漁志・香菜、平山健人・みずき
壱岐市生涯活躍のまち推進協議会 事務局長 石丸修平(福岡地域戦略推進協議会)
- (5)主 催：たちまち、壱岐市、壱岐市生涯活躍のまち推進協議会

※スペースに限りがございますので、準備の都合上、ご取材頂ける場合は下記内容を FAX でお申込みください。

※E-Mail でも受け付けいたします。(info@fukuoka-dc.jpn.com)

媒体名	部署名	
お名前	人数	
TEL	MAIL	
ビデオ撮影の希望：	<input type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 無し
カメラ撮影の希望：	<input type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 無し
備考	※取材に関する要望等ありましたらご記入ください。可能な限り調整いたします。	